



名寄市立大学の窓から知への誘い

「確実に知ることとは可能か(2)」

保健福祉学部 教養教育部 教授 古牧 徳生

vol.25

私には兄が2人いますが、上の兄が言つには下の兄は色盲だそうです。なんでも小学生の頃、下の兄は近所の銀行の壁を紫色に描いたそうです。でも私にはあの壁は白く見えますし、上の兄も白いと言います。すると2対1で「あの壁は実際に白い」と言えるのでしょうか。次のお話を思い出しましょう。

昔おかし、ある行商人が山奥の村に行くと、一つ目小僧に出くわしました。行商人が「わっ、一つ目小僧だ」と叫ぶと、相手も「わっ、二つ目の化け物だ」と叫びました。すると「えっ、化け物だ」と大勢の一つ目小僧たちが出てきました。こつしてこの行商人は見世物の檻に入れられてしまいましたとき。

意見と「間違つた意見」があるのではなく、「多数派の意見」と「少数派の意見」があつて、多数派が数の力で「真理」を名乗っているだけのように思えてきます。実は多数派の方が間違つていく可能性たつてあります。例を挙げれば、昔の人は「太陽が地球の周りを回っている」と思っていました。「地球が太陽の周りを回っている」と唱えたジョルダン・ブルノー(1548～1600)は見世物どころか火焙りにされてしまいました。するとこつと言えましよう。

「多くの人がさう言うから正しい」とは必ずしも言えない。

理屈のうえで、確実な知識とは「存在しているものを認識する」というただそれだけのことです。それなのに、天体の運行という客観的存在すら人間は間違えてきたのです。ましてや世間の道徳とか風習とかい

つた価値が絡むことはなおさらでしょう。となれば、世間で言われていることを鵜呑みにするのではなく、「そのような事実は本当に存在するか」と検証しなければなりません。つまり「なぜそれが事実と言われるのか」、「他に可能な説明はないのか」と理詰めを考えていくべきなのです。

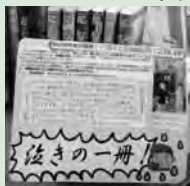
私たちは知識の対象である存在をさまざまな方面から検証しなければなりません。するとまずは幅広い視野を持ち複眼的思考を養う必要があるのです、本学に教養教育部が設けられているわけです。そして、その第一歩として、知識の探求とは「何がなるのか」という存在の事実をめぐる探求であり、この当たり前のことこそ、すべての学問の原点であることを理解してもらつたために、私は今日もせつせと黒板に字を書いては消しているのです。

図書館的話題・ポップ

本を買う、あるいは借りるときには何が決め手になりますか。新聞に載った書評、本の帯に書かれたキャッチコピーでしょうか。書店や図書館ではおすすめ図書にポップをつけることがあります。

ポップとは商品の販売促進のための手書き広告です。タイトルだけでは何の本なのかわからないものも、ポップに魅かれて手に取る人が増えます。

当館でも「ケアの現場を目指す学生にぜひ読んでもらいたい」と思いを込めてポップを作成しています。



大学図書館にはこんな本があります

～～哲学に関する図書～～

- 『哲学の教科書』 中島義道 講談社
- 『流れとよどみー哲学断章ー』 大森荘蔵 産業図書
- 『哲学者たちの動物園』

ロバール・マッジョーリ／國分俊宏訳 白水社

- 市立大学図書館 開館時間変更のお知らせ
1月6日(火)～9日(金)は短縮開館(9:00～19:00)
1月17日～2月14日の土曜は開館(9:00～16:00)
- 問い合わせ 名寄市立大学図書館 ☎01654②4199
本館：内線3114 分館：内線2200

名寄市立大学道北地域研究所 第3回市民公開講座

「元気に長生きするためにはどうしたらよいか」「認知症予防のためにはどうしたらよいか」といった情報が社会に氾濫していますが、実際のところ、若さと健康を保つために必要なことは、「身体によい“当たり前のこと”を毎日続けていくこと」です。

今日からできる「秘訣」を健康科学の専門家が解説します。たくさんの参加をお待ちしています。

- とき 1月29日(木) 18:30～20:00
- ところ 駅前交流プラザ「よーな」大会議室
- テーマ 「今日からできる！若さと健康を保つ秘訣」
- 講師 名寄市立大学副学長 寺山 和幸
- 参加費 無料(直接会場までお越しください)
- 問い合わせ 名寄市立大学道北地域研究所 ☎01654②4194(内線2101)

